

会員各位

立春を過ぎたとはいえ、まだまだ寒さが続くこの時期、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今年度も早いもので、残すところあと1月余りとなりました。体調管理に気をつけて、忙しい年度末を乗り切っていきましょう。佐事研だより第103号は以下の内容です。

- ◆共通テーマ「佐事研役員紹介」(佐事研 顧問 古川 治 学校事務総括推進員)
- ◆フリーテーマ「小中学校事務担当者会における事例発表」(武雄市)

## ○佐事研役員紹介

### 「 仕事は、今からです! 」

**佐事研 顧問 古川 治 学校事務総括推進員**  
(佐賀市立中川副小学校)



1955 年生まれ

趣味：旅行(47 都道府県制覇!!)

最近感動したこと：

今の若い人の優秀さ

#### 1 中央教育審議会答申によって始まる。

今日の学校事務で常識となっている共同実施は、平成 10 年 9 月 21 日の中央教育審議会答申「今後の地方教育の在り方について」によって始まりました。その後一貫して主旨を同じくする答申が続き、文部科学省の政策の大きな柱となりました。

この流れを受けつつ、更に歩を進めた中央教育審議会答申、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」が平成 27 年 12 月 21 日に出るに至りました。この答申では、たくさんの有益な提示がなされていますが、学校事務職員の研修関係では、(2) 学校のマネジメント機能の強化③事務体制の強化(事務職員の採用等の改善)に「採用段階からの意識付けを行うとともに、教育行政や学校事務に携わってこなかった職員を学校に配置する場合には、必要な研修を実施するなどの配慮が求められる。」とされています。

佐賀県の「学校事務総括推進員」は、正にこの答申を受けて今年度初めて設置されたものです。人材育成を中心にたくさんの学校事務関連の業務を行っていますが、主な業務である事務職員研修については、昨年度まで私が担当していた職「統括事務長」の延長線上にありますので、佐賀県教育委員会及び統括事務長会と連携して職務を行っています。

## 2 1年間、仕事をしての感想

本年度は、初年度ということもあり、知事部局との人事制度一元化後の職員 41 名を中心に若手の事務職員指導を学校訪問・メール・電話・通便・郵送などの手段を駆使して業務に当たってきました。率直に感想を申し上げますと、若手の事務職員の皆さんは、総じて優秀です。また、たいへんに真面目です。ベテラン事務職員がうかうかしていると、追いつかれるぐらいの状況があります。

そうは言っても、やはり佐賀県です。県全体を見渡すと管理職事務長さんたちをはじめとして、優秀なベテラン事務職員もたくさん活躍しています。大学卒業程度以上の採用で行ってきた佐賀県義務制事務職員のモチベーションの高さを実感しています。全国を見ても、これほど高いレベルを維持できている県は、他にたくさんはありません。全国大会に参加したり、県外研修視察等を行ったりすると良く分かります。

しかし、モチベーションを持っているからといって、これに安住してはいけません。まだまだ、理想とする学校事務が完成しているわけではありません。佐賀県全体を俯瞰すると、「学校徴収金事務の確立」や「学校の業務適正化」に一定の役割を果たすことなど、解決すべき課題も山積していると感じています。



## 3 今後の学校事務の方向性

従来、学校事務の世界は閉鎖職でした。これでは、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本、社会的な信頼関係や人間関係）が築けません。「集中的同質的ネットワーク」しか築けず、閉鎖的で相互依存的な発展性に欠ける職員意識となっていました。狭い人間関係の中で、同質的な集団が閉鎖的な情報交換を繰り返している限り、新しい発想は生まれにくいのです。

知事部局採用職員と一体的になって眼を広く開き、多様型ネットワークを築いていくべきです。この中から新しいリーダーシップや、素晴らしい職務遂行能力を持った事務職員が出てくるものと期待しています。どのような人事管理システムをとろうとも最終的には、「佐賀県民のためであり、佐賀県の児童・生徒のため」なのですから、この点を踏まえておけば大きな誤りはないと思います。

制度に絶対的なものはありません。どの制度をとっても長所もあれば短所もあります。多様型ネットワークを築けるような制度を構築しながら、運用に配慮し学校事務総括推進員などの支援策を講じて行けば、100 パーセントとはいかなくても改革以前の学校事務制度より数段上の業務遂行ができると確信しています。現実には、現在の管理職事務長を中心とした共同実施体制により、学校事務職員のモラル等の平均値は平成 20 年度以前の状況よりも格段に向上し、大きなアウトカムを創出しています。佐賀県の義務制学校事務は、若い事務職員の活気と能力を吸収しつつ、大きく前進しているといえます。



## 4 おわりに

学校事務職員制度が始まってから、ほぼ 70 年になろうとしています。初めから今のような制度ができていたわけではありません。標準定数法ができて 58 年が経過し、佐賀県で小中学校事務職員の全校配置が実現して 25 年が経ちました。共同実施の全県体制ができて 10 年となります。本当に少しずつですが、確実に改善してきているのです。

義務制の学校事務も人的配置、職務体制などやっとな整備されている状況になってきました。しかし、これで満足してはいけません。佐賀県義務制事務職員のモチベーションは、もっと高いものがあるのです。私たちは、所属している市町の教育行政事務を牽引していただくだけの能力があり、これを発揮していくべきです。更に条件を整備しつつ、学校事務の中身を充実していかなければなりません。

最終目標は、学校事務を通して教育に貢献していくことです。整備された学校事務を確立し、佐賀県の教育に貢献していきましょう。「仕事は、今からです！」

## ○各地区の取組紹介

### 「事務担当者会における事例発表」(武雄市)

武雄市では、月にまたは2か月に1回、事務担当者会を行っています。市内小中学校から事務担当者が出席し、武雄市学校教育課、教育政策課の担当者と事務連絡及び協議をしています。

今年度から、事務担当者会の中で、各学校より事例発表を行うという新しい取組を始めました。今回は、この新しい取組について掲載します。

#### 事例発表の目的

① 事務担当者会の時間の有効活用

事務担当者会では、市教育委員会と学校事務職員、または事務職員同士で事務連絡などを行っていましたが、この事務担当者会は、市内の全学校事務職員が集まる貴重な機会です。支援室を越えて、各学校の事例を共有することで、事務職員としての研鑽につながります。

② 学校事務職員の学校教育への参画

これからの学校事務職員には、組織マネジメントに基づく専門的な企画力も求められます。学校に唯一の行政職員として、時に学校内で発言をする機会も多々あります。そのようななか、この事務担当者会で事例発表をすることで、自己の発言力を磨き学校の中に還元していきます。

#### 事例発表の内容

事例発表の内容は下記のとおりです。

毎回、2つの学校運営支援室から1校ずつ発表しています。

#### ☆第2回事務担当者会☆

##### 「学級会計支援事務について」(第一支援室)

学級費の未納について、管理職、担任、事務職員が連携して、対策に取り組んだ事例。

##### 「扶養手当の認定における農業所得の控除対象について」(第二支援室)

「H27.7.16 手当質疑票」より「地代・賃借料」と同様、控除対象。毎年の確認が重要であるという事例。

##### 「食物アレルギー対応について」(第二支援室)

児童の食物アレルギーについて、事務職員として施設面、予算面(武雄市では、給食用消耗品や給食用消毒剤費等が各学校に配当されている)からどのように対応していくか、危機管理マネジメントについての事例。



### ☆第3回事務担当者会☆

#### 「障害者差別解消法～合理的配慮と基礎的環境整備～」(第二支援室)

合理的配慮の充実を図る上で、事務職員と深くかかわりのある基礎的環境整備の充実が不可欠であるという事例。

#### 「支援室業務における施設の共同点検について」(第三支援室)

支援室における施設点検の方法の紹介。第一、第二支援室も施設点検を行っているので、その情報交換。

### ☆第4回事務担当者会☆

#### 「職員会議における事務だよりの発行」(第三支援室)

事務だよりをを用いての職員に向けた連絡。毎月の事務だよりについて紹介。



#### 「コミュニティ・スクール(CS)加配事務職員の業務について」(第一支援室)

CS担当職員としての業務である、学校運営協議会での役割やCS通信の発行について。

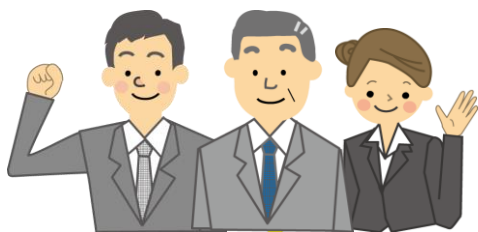
### ☆第5回事務担当者会☆

#### 「市費予算の執行管理について」(第一支援室)

市費執行計画を昨年度の実績を基に作成後、管理職に確認し、職員に説明。執行計画や執行状況を明らかにし、職員と予算情報を共有するという事例。

#### 学校施設の長寿命化改修(第二支援室)

改築と長寿命化改修の違いやメリット・デメリットについて。他県の取組状況等を紹介。



支援室を越えて、武雄市内全体で重要な事例について情報共有ができています！  
気になる事例についてお尋ねになりたい場合は、  
武雄市事務職員にお尋ねください！

#### ～編集後記～

佐事研だより第103号はいかがだったでしょうか。古川前会長の学校事務職員への想いや期待の溢れる内容になっていると思います。

お忙しい中、原稿を執筆していただきありがとうございます。

「佐事研だより」に関してご意見・ご要望等ございましたら、今後の参考にさせていただきますので、各地区の情報推進部員までお知らせください。

佐事研情報推進部

